

10周年記念

慢性統合失調症者へのメタ認知トレーニング実施の試み

大 阪 一 樹
京都府立洛南病院

はじめに

近年、認知行動モデルに理論的基盤をおいたメタ認知トレーニング (the Metacognitive Training program for schizophrenia patients : MCT) が開発された。メタ認知とは「自分の思考についての思考」で、思考プロセスのモニタリングや、心理的問題へのコーピングなども含んでいる。MCTは統合失調症によくみられる認知的エラーや、問題解決のバイアスに焦点を当てた治療法であり、欧米ではエビデンスも検証されている。ただし、本邦におけるMCTの効果に関する報告はまだ数少ない。

目的

慢性統合失調症者に特徴的なストレス対処法や対人認知を、健常群との比較で検討する。また、MCTに参加することで認知バイアスの修正方法を習得し、ストレス対処法や対人認知に変化がみられるか否かについても検討する。

対象と方法

対象は、A病院に入院および通院している慢性統合失調症者15名(以下、MCT群)と、健常群14名である。平均年齢はMCT群が 46.4 ± 12.3 歳で、健常群が 31.4 ± 5.1 歳である。MCT群は院内グループと外来グループに分け、隔週で、1回1時間、作業療法士2名、臨床心理士2名でMCTを実施した。実施期間は平成25年10月～平成26年2月までである。

対象者にはTAC-24 (the Tri-axial Coping Scale, 神村ら, 1995) と対人信頼感尺度 (堀井ら, 1995) を実施した。MCT群については、MCT参加前と終了後の2回にわたり評価している。TAC-24 と対人信頼感尺度の分析は、Wilcoxon の符号付順位和検定を用いて行った。なお、本研究計画は藍野花園病院の倫理委員会の承認を得て行った。

結果

TAC-24の「気晴らし」「カタルシス」が5%水準で、また「情報収集」と対人信頼感尺度が10%水準で健常群に比べ、MCT群が有意に低かった。また、MCT群の参加前と終了後では、TAC-24の「気晴らし」が10%水準の有意傾向で、終了後の方が高かった。

考察

慢性統合失調症者はストレス対処において、発散的な解消をしたり、他人に愚痴をこぼしたりして、気分転換をしにくいことが考えられる。また、問題を解決するために、他人から情報を集めることも難しいようである。こうした傾向から、慢性統合失調症者は人的および物的な社会資源を活用しきれず、非効率的なストレス対処に陥りがちであると考えられる。

今回、MCTに参加したことで、TAC-24の「気晴らし」が高くなったことから、ストレスイベントに固執せず、柔軟に対処しようとする意識が高まったと考えられる。

